

航空業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
1999	7	11 ～ 12	航空機(乗員14名、乗客503名)が飛行中、ナイフを持った乗客の一人が、コクピット内に進入し乗員の首をナイフで刺した。	921	90	1000 ～ 9999
1999	5	23 ～ 24	国際線出発ロビーで、乗務で駐機場に向かうため4階から3階への下りエスカレータに乗っていたところ、体のバランスを崩してエスカレータ上を横転しながら転落した。	229	1	1000 ～ 9999
1999	10	6 ～ 7	出張中の移動をタクシーで行っていて、タクシーがスリップして道路右側へ転落したため、一人が死亡し、一人が肋骨骨折・頸椎捻挫、もう一人が鎖骨骨折・肩甲骨骨折を負った。	231	17	1000 ～ 9999
1999	3	13 ～ 14	セスナ機で山腹に墜落した。	239	18	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	事務所建物内の掃除で、廊下でキャスターつき事務椅子に乗って転落した。	379	1	50～ 99
2000	9	8 ～ 9	遊歩道の補修工事において、ヘリポートに陸送された工事資材(石材、砂利)を現場まで空輸してヘリポートへ帰って来たときに降下速度が速かったため、ヘリポート手前の林に衝突してバウンドしたのち、一旦約10～15mの高さに上昇したところでテールブームが折損し、その後2回程度左に旋回して墜落し炎上した。	229	18	100 ～ 299

2000	9	8 ～ 9	遊歩道の補修工事において、ヘリポートに陸送された工事資材(石材、砂利)を現場まで空輸してヘリポートへ帰って来たときに降下速度が速かったため、ヘリポート手前の林に衝突してバウンドしたのち、一旦約10～15mの高さに上昇したところでテールブームが折損し、その後2回程度左に旋回して墜落し炎上した。	229	18	～ 299
2001	3	13 ～ 14	顧客の操縦するパイパー式単発飛行機に同乗して飛行中、山の斜面に衝突した。	239	18	50～ 99
2001	5	11 ～ 12	上空約200mで訓練飛行中のヘリコプターとセスナ機が接触して、2機とも墜落し、搭乗していた6名全員が死亡した。(6名のうち他は訓練生労働者は3名)	239	18	～ 499
2001	5	11 ～ 12	上空約200mで訓練飛行中のヘリコプターとセスナ機が接触して、2機とも墜落し、搭乗していた6名全員が死亡した。(6名のうち他は訓練生労働者は3名)	239	18	～ 499
2001	5	11 ～ 12	上空約200mで訓練飛行中のヘリコプターとセスナ機が接触して、2機とも墜落し、搭乗していた6名全員が死亡した。(6名のうち他は訓練生労働者は3名)	239	18	～ 499
2001	8	9 ～ 10	セスナ機で航空写真を撮影するため、自営カメラマン2名を乗せて飛行中、何らかのトラブルにより水田に墜落して機体が炎上し3名全員が死亡した。	239	18	1～9
2002	7	15 ～ 16	個人所有のヘリコプターのエンジン始動が悪いとの連絡を受け2人で故障探求をしたところ、バッテリーが弱いことが判明したのでバッテリー交換のため、整備工場へヘリコプターで飛び着陸直前に墜落炎上し2人が死亡した。	239	18	30～ 49
2002	7	21 ～ 22	航空機の修理のため空港内駐機場場に駐機し、横付けしたカーゴローダーに設けられた幅74cmの補助プラットホーム上を歩いて荷物庫内に入ろうとしたところ、補助プラットホームを固定する門が外れていたため足がかりを失って約2.8m下の地上に墜落した。	225	1	～ 299

2003	3	10 ～ 11	米国製双発プロペラ機の整備状況を確認するため、1時間45分の予定で飛行場を離陸しテストフライトを行っていたところ、離陸後約20分後に山林に墜落した。	239	18	1～9
2003	3	10 ～ 11	米国製双発プロペラ機の整備状況を確認するため、1時間45分の予定で飛行場を離陸しテストフライトを行っていたところ、離陸後約20分後に山林に墜落した。	239	18	1～9
2003	4	18 ～ 19	ヘリコプターによる発電用燃料の搬送作業を終えて広場に着陸し、エンジンに付着した塩分を除去する作業を行っていたところ、強風が吹いたためヘリコプターが横転し、作業中の1人がメインローターに接触して50mほど飛ばされた。	239	6	10～ 29
2003	10	17 ～ 18	空港において、航空機の貨物室にハイリフトローダーと呼ばれるワンマンコントロールのコンテナ運搬車で荷を積み込んでいるときに、コンテナとコンテナとの間にはさまれた。	229	7	100 ～ 299
2004	6	11 ～ 12	ヘリコプターが空港に着陸する際に同空港敷地内に墜落した。	239	18	10～ 29
2004	1	10 ～ 11	被災者3名が小型飛行機に乗り込み、航空記念写真を撮影した後、次の撮影場所に向かおうと上空を旋回中に失速し、電線を切断しながら墜落し地上に激突した。	239	18	30～ 49
2004	1	10 ～ 11	被災者3名が小型飛行機に乗り込み、航空記念写真を撮影した後、次の撮影場所に向かおうと上空を旋回中に失速し、電線を切断しながら墜落し地上に激突した。	239	18	30～ 49
2004	3	9 ～ 10	国道で発生した道路交通事故を上空から取材中のヘリコプターが、送電線に接触し約150m墜落した。	239	18	1～9
2004	3	9 ～	国道で発生した道路交通事故を上空から取材中のヘリコプターが、送電線に接触し約150m墜落した。	239	18	1～9

		10			
2004	12	21 ～ 22	ヘリコプターによる遊覧飛行を終了し空港へ帰る途中に海の沖合に墜落した。	239	18 10～ 29
2004	12	21 ～ 22	ヘリコプターによる遊覧飛行を終了し空港へ帰る途中に海の沖合に墜落した。	239	18 10～ 29
2004	12	21 ～ 22	ヘリコプターによる遊覧飛行を終了し空港へ帰る途中に海の沖合に墜落した。	239	18 10～ 29
2007	6	15 ～ 16	山の緑化作業として、ヘリコプターで樹木の種子と栄養剤を散布する作業を行っていた。ヘリコプターは臨時ヘリポートから離陸し、5分ほどで戻る予定だったが連絡が取れなくなったため捜索したところ、ヘリポートから北に約1.5 km離れた山林に墜落しているのが発見された。	239	18 30～ 49
2007	10	15 ～ 16	航空機の操縦免許取得希望者を対象とする体験飛行で、2人乗りヘリコプターに希望者1名を乗せて同機を操縦していたところ、墜落した。	239	18 10～ 29
2007	11	11 ～ 12	航空測量写真撮影を行っていた際、墜落した。	239	18 1～9
2007	11	11 ～ 12	航空測量写真撮影を行っていた際、墜落した。	239	18 1～9
2007	4	16 ～ 17	山小屋付近において、ヘリコプターによる人員輸送を実施中、悪天候により被災者操縦のヘリコプターが墜落した。	239	18 10～ 29
		11	海上での事故の取材のため、操縦士を含む4名が搭乗してヘリコプターに		

2008	7	～	て飛行中に海上で消息不明となった。なお、後日被災者の遺体が発見され	239	18	1～9
		12	た。			
2008	7	～	海上での事故の取材のため、操縦士を含む4名が搭乗してヘリコプターに	239	18	1～9
		12	て飛行中に海上で消息不明となった。なお、後日被災者の遺体が発見され			
		12	た。			
2010	7	～	山中にて山岳遭難救助中、何らかの理由によりヘリコプターが墜落し、搭	239	18	50～
		12	乗者2名が死亡したもの。なお、本件における死亡者は5名であり、うち			99
		12	3名は消防署隊員であったもの。運輸安全委員会にて調査中。			
2010	7	～	山中にて山岳遭難救助中、何らかの理由によりヘリコプターが墜落し、搭	239	18	50～
		12	乗者2名が死亡したもの。なお、本件における死亡者は5名であり、うち			99
		12	3名は消防署隊員であったもの。運輸安全委員会にて調査中。			
2010	7	～	パイロット及びカメラマンの被災者2名は、航空写真撮影のため小型飛行	239	18	300
		10	機に乗り、目的地に向けて飛行中、レーダーから機影が消えて行方不明と			～
		11	なった。2日後に山中に墜落しているのを発見され、2名は収容されたが			499
		11	病院で死亡が確認された。事故当時は濃霧注意報が発令されており、視界			
		11	不良が一因である。			
2010	9	7	登山道の歩道橋の橋脚補強工事で使用するための麻袋に入れた砕石材約	239	18	100
		～	2.4 tをワイヤーで吊し、ヘリコプターで輸送中、山林に墜落した。			～
		8				299
2010	9	～	被災者はヘリコプターで山中の橋の基礎部の補強工事に使う資材や機材の	239	18	50～
		7	運搬の為、資材置き場と現場を往復していたが、現場に霧がかかっていた			99
		8	ために資材を降ろさず、資材置き場に戻る途中に墜落したもの。災害発生			
		8	時、資材（自然石、2.4 t）はワイヤーロープを用いてヘリコプターか			
		8	ら吊り下げられていた。			
2011	10	～	災害発生当日被災者2名が乗ったヘリコプターは、山中の登山道整備工事	239	18	50～
		12	で使用する資材輸送のため、飛行場を離陸し、山中に設けられた作業用ヘ			99
		13	リポートに向かった。当日は、13個の資材を輸送する予定であり、10			
		13	個目の資材の輸送を終え、作業用ヘリポートに帰投途中、機体後部に異変			

			が生じ、機体のバランスが崩れまもなく墜落したもの			
2015	3	10 ～ 11	発電所の配電撤去工事において、ヘリコプターにて撤去資材を運送する業務を行っていたところ、作業開始から発電所と荷卸し場を3往復した後、給油のためにヘリポートに向かう途中、高さ約300メートルの位置にあった送電線に接触して墜落、乗員2名が死亡したもの。	239	18	30～ 49
2015	3	10 ～ 11	ヘリコプターを使用し資材の運搬を行い、当該資材の荷下ろし完了後、燃料補給のため場外離着陸場に移動を開始したところ、送電線に接触し墜落炎上した。	239	18	30～ 49
2015	2	17 ～ 18	航空機の油圧系装置を整備していたところ、高さ約2.6mの作業床の端から墜落したもの。	416	1	100 ～ 299
2016	7	9 ～ 10	整備作業として、登山道の路肩の崩壊防止用の丸太を交換するために杭打ち作業をしていたところ、登山道から片足を法面に下ろしハンマーで杭を打っていた被災者が、姿勢を崩し、約50m下まで滑落し、頭部を強打したことにより死亡した。	711	1	1000 ～ 9999
2017	12	12 ～ 13	航空機の尾翼等整備のため、格納庫奥に保管されていた機体をトーイングトラクターで牽引する際、一旦格納庫外へ前進移動させた後、後退させ格納庫内の作業位置へ移動させる作業を行っていたところ、突然左翼下にある車輪が格納され、機体が傾き、左翼が地面に接触した。その際、左翼の真下にいた被災者が下敷きになり被災した。	239	6	300 ～ 499
2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	239	18	50～ 99
2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	239	18	50～ 99
		14	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、			50～

2017	11	～	何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。なお、当	239	18	99
		15	該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。			
2017	11	～	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、	239	18	10～
		15	何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。なお、当			29
			該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。			
2017	6	～	被災者は、小型飛行機（機体は当該事業場が所有）に、教官（アドバイ	239	18	1～9
		14	ザー）兼コパイロットとして搭乗していた。同飛行機には、被災者、操縦			
		15	者（非労働者）、ほか2名（非労働者）の計4名が乗っていた。災害発生			
			日、同飛行機がA空港からB空港まで飛行した後、B空港を離陸してA空港			
			まで戻る際に、山中に墜落した。翌日、4名の死亡が確認された。			
2018	8	～	県境で開通予定の登山道視察のため、計9名がヘリコプターに搭乗して飛	239	18	1～9
		10	行中、何らかの原因で山中に墜落したものの。			
		11				
2018	8	～	県境で開通予定の登山道視察のため、計9名がヘリコプターに搭乗して飛	239	18	1～9
		10	行中、何らかの原因で山中に墜落したものの。			
		11				

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。